原子力学会標準委員会　リスク専門部会
第 46 回レベル 2PRA 分科会審議

日時　2023 年 1 月 27（金）13:30-16:30
場所　Web 会議
出席者：
委員：濱崎（主査），成宮（副主査），山越（幹事），大里（廣内（幹事）代理），廣川（幹事），池田，石川，小野田，小谷，白石，鈴江，橋本，原口，松山，美原，山路，成川
17 名出席
（欠席）宇井，中村（康），中村（真），守田，佐藤
常時参加者：杉田，大沼，三浦，西村，友澤，羽佐田
（欠席）阿部，小城

議事：(発言者省略)
議事に先立ち，定足数及び配布資料の確認を行った。なお，参加者の都合により，議題 5，7 を議題 4 より先に議論することとなった。

議題 1　前回議事録の確認
＜要旨＞
廣川幹事より，資料 P10SC46-1 に基づき，前回議事録要旨（案）について説明があった。特にコメントなく，正式版として発行することが承認された。

議題 2　人事案件
＜要旨＞
山越幹事より，資料 P10SC46-2 に基づいて説明がなされ，委員退任が報告された。また，委員選任及び常時参加者の登録が承認された。

・委員退任　成宮　祥介（原子力安全推進協会）
　1 月 27 日分科会までは委員として参加
・委員退任　渡邊　学　（東京電力ホールディングス株式会社）
・委員選任　佐藤　圭祐（東京電力ホールディングス株式会社）
・常時参加者の登録　羽佐田　剛（東京電力ホールディングス株式会社）

成宮副主査の退任に伴い，主査から副主査を指名した。
・副主査：中村　康一（電力中央研究所）

議題 3　レベル 2PRA 標準 の停止状態拡張のための文献調査結果と課題の抽出について
＜要旨＞

濱崎主査，小野田委員，石川委員より，資料P10SC46-3に基づき，レベル2PRA標準の停止状態拡張のための文献調査結果，抽出された課題，今後の進め方について説明がなされた。

これに対して以下の議論があった。

- 停止時でのソースターム放出に影響するような操作について，プラントごとに異なるかもしれないが、今後議論・整理して標準への反映を検討する。
- 出力運転時に利用した解析モデルの停止時への適用性については，基本的には大きな違いはないものの，空気雰囲気でのジルコニウム酸化反応，ルテニウム放出形態，崩壊熱の扱いで違いがあり得る。
- ジルコニウム火災の定義については、十分に分からない部分がある。。
- 今後，P10SC46-6 の分担にしたがい，廣内幹事とりまとめにて規定への反映（表2の確認，表3の充実）を実施していく。

議題5　ASRAM 2022 参加報告

<要旨>

成宮副主査より，P10SC45-5に基づき，ASRAM 2022（11月30日～12月2日）への参加報告があった。参加者はオンラインを含めて125名で，レベル2PRA標準及び地震拡張について，成宮副主査，中村委員より2件の発表及び質疑応答を実施した。特に韓国からはPRA標準の構成について質問があった他，中国・韓国からもPRA標準に関する発表があった。

議題7　その他（ASRAM2023とPSAM17&ASRAM2024について）

<要旨>

成宮副主査より，ASRAM2023とPSAM17&ASRAM2024について報告があった。ASRAM2023（2023年11月8～10日の見込み）は中国（北京かハルピン）で開催される。一方で，2024年に開催が予定されているPSAM17とASRAM2024は合同で 日本での開催となる見込みである。

議題4　レベル2PRA標準の階層化検討の進め方について

＜要旨＞

濱崎主査，山越幹事より，資料P10SC46-4に基づき，レベル2PRA標準の階層化検討の進め方について説明があった。

これに対して以下の議論があった。

- 表1のまとめ方として，レベル2PRA標準は今回新規作成となるため，従来版との比較は行わないこととする。(L1基準，L1指針，L2基準，L2指針の並びで整理)。

- 今後，P10SC46-6 の分担にしたがい，廣川幹事とりまとめにて作業方針を決めて作業を開始する。

議題 6　今後の進め方

＜要旨＞

山越幹事より，P10SC46-6 に基づき，今後のスケジュールと動向について説明があった。JCNRM は 2/27~3/2 での開催予定であり，L2 標準については特に議論されない予定である。

次回分科会は，2023/4/21（金）13:30〜17:00 に開催する。

以上